

ラグビー部

平成27年1月3日(土)
岡山朝日高校グラウンド
参加者／約80名

恒例のOB戦とOB総会を開催。現役選手20名とOB総勢約80名が参加。総会後の懇親会では、山岡主将の「今年の目標は中国大会出場」という力強い宣言をもって閉会。OBの皆様、もうすぐ70周年ですぞ。(昭46卒 大塚壮治)



バレーボール部

平成27年8月15日(土) エクセルホテル岡山
参加者／OB・OG26名 現役18名

毎年お盆の時期にバレー部OB五校戦が開催され、親睦チームが2連覇しました。

その夜、懇親会が開催され、現役生の意気込みや、OB・OGの近況報告があり、和やかに楽しい内に会も終わりました。

今年は1月に昭和40年卒以前のオールド会も開催され幅広い世代との親交が深められています。(昭59卒 大月理枝)



応援歌

岡山県立

岡山朝日高等学校 応援歌

一、旭の川のせせらぎに
心洗いし若人が
抱く理想の栄ければ
今日よき敵を迎え得て
花紅のかんばせを
峯の色に染むるかな
旭日天に二つなく
栄光われらと共にあり
朝日 朝日 朝日 朝日

作詞／石川滄一
作曲／中山善弘

二、操の山の松風に
腕高鳴る若人の
ゆくてをはばむ何かある
仇なす敵を迎えては
若き生命と意気の香の
栄あるいくさかたんな
旭日天に二つなく
栄光われらと共にあり
朝日 朝日 朝日 朝日

朝日 朝日 朝日 朝日



岡山朝日高校応援歌と其の作詞者との不可思議な出会い

石川 滄一

私は岡山朝日高校を1957年(昭和32年)に卒業し、現在は平塚市内在住です。

私が入学した当時、朝日高校には校歌はあったが応援歌は無かったので、昭和31年に、生徒会が在校生より応援歌々詞を募集しました。私も応募しましたが、その選考結果を知らされずに卒業しました。その後も生徒会及び学校側から、何の連絡も無く、私は応募した歌詞は不採

用だったと諦めて、すっかり忘れていました。大学を出て東京勤務の社会人となり三十年程経ったある日、岡山朝日高校京浜同窓会事務局に乞われ、その年の総会の準備作業に携わっていた折に、同窓会の資金集めに総会出席者に買ってもらう品々の中に、「岡山朝日高校の校歌・応援歌」の録音テープを見付けました。

驚いた事には、その応援歌々詞は私が応募したものでした。中山善弘先生作曲

の応援歌になっていた事実を、その時初めて知ったのです。作詞者本人の耳目に触れずに四半世紀以上の間、この応援歌が生徒達に折に触れて歌われ続けて来ていたのです。私にとっては大変名誉な誇らしい事ではありますが、この様に作詞者本人が長い間、其の存在を知らなかったという不可思議な経緯を辿った事実は是非同窓の方々を知ってもらいたく、この様に筆を執った次第です。

応援歌を作曲された音楽の中山善弘先生(S22年卒、S28～H1在職)は、「昭和31年、生徒会が作詞を募集し、生徒会から私へ作曲の依頼がありましたので、私は石川さんに会ったことはありません。あの曲はあまり力を入れずに書かして、その方がやっぱり自然ですね。明るく青春の賛歌とでもいいますか、若人の澀刺とした意気込みと情熱を謳いあげました。ゼ

ひ校歌とともに機会あるごとに歌ってください」と話している。

操山高校との親睦を目的として定期戦(朝操戦)が始まったのは昭和29年(1954)。定期戦では応援合戦が行われ、エールや型とともにこの応援歌が歌われた。朝操戦は最終的に五校戦となったが、平成11年度(1999)に単独選抜に移行したため、五校戦は平成10年

が最後となった。応援団の活動の中心は五校戦であったため徐々に活力を失い、平成16年(2004)に休部状態となり、現在に至っている。しかしほぼ半世紀に亘って毎年必ず歌われていた応援歌を懐かしく思い起こす卒業生は多く、同期会の最後には校歌とともに必ず応援歌を歌うという学年もある。